

熱川温泉病院

平中 里香 ・ 青戸 あい （看護部 / 看護師）

功 績 災害時に身近に入手できる生活用品を用いた応急手当の指導を通じて、地域住民の防災意識向上に寄与し、さらには当院の社会的信頼と地域貢献の発信に貢献した功績。

推薦者氏名 石川 桂子（看護部長）

推薦理由 青戸と平中は、日常業務に真摯に取り組みながら、進んで住民向けに災害時に身近に入手できる生活用品を用いた応急手当の指導にあたり、地域住民の防災意識向上に寄与し、さらには当院の社会的信頼と評価の向上、アウトブランディング強化に貢献しておりますので、理事長賞にご推薦申し上げます。

内 容

看護師の青戸（入職4年目）および平中（入職3年目）は、7月開催の静岡県看護協会賀茂支部主催の講習会に参加し、講師のDMAT看護師より「災害発生時の救護に役立つ応急手当」について指導を受けました。雑誌や段ボール、タオル、ラップ、レジ袋など、災害時でも入手できる生活用品を用い、「切創」「擦過傷」「骨折」「捻挫」といった多様なケースに対応する応急処置の方法を習得。その内容を地域住民へ指導する役割を担いました。

9月末、2人は東伊豆町奈良本で実施された地域防災訓練に参加し、小学生から高齢者まで約60名の住民に対して講習を実施しました。ラップを用いた止血法、ポリ袋を用いた三角巾の代用方法、段ボールや雑誌を使った足の固定方法、毛布を利用した担架の作り方など、身近な物で応急処置を行う工夫をわかりやすく説明しました。その後、住民の皆さんは3つのグループに分かれて、実際に体験してもらいました。会場では日常用品の意外な利用方法に感心したり、大柄な男性を担架の代わりに毛布を使って持ち上げることができた時は驚きの声も聞かれました。

さらに11月は毎月当院職員がボランティアで参加している「こどもおとな食堂」にて、10名の地域の高齢者に対しても同様に応急処置を指導しました。過疎の進む地域柄、参加者も独居の方が多く、「わたしが試してみます!」「もう一度やってみせてくれませんか?」と積極的に学ぶ姿勢に両名の指導にも力が入り、受講した皆さんへ「自分の身は自分で守る」という意識を高める契機となりました。

両者の活動は、災害時の「自助・共助」を含めた防災意識の向上に大きく寄与しました。また、積極的に地域に向けて専門性を発揮する姿は、当院が地域と共に歩む存在であることを印象づけ、実際に地区役員の方々から感謝の言葉を頂くなど、当院の社会的信頼と評価の向上、アウトブランディング強化にも繋がっております。